

EYE NET

アイ・ネット

第56号

令和6年2月

発行 前原校区

青少年育成指導員会

編集 広報部

第11回前原校区ぬくもり文化祭 10月28日、29日開催



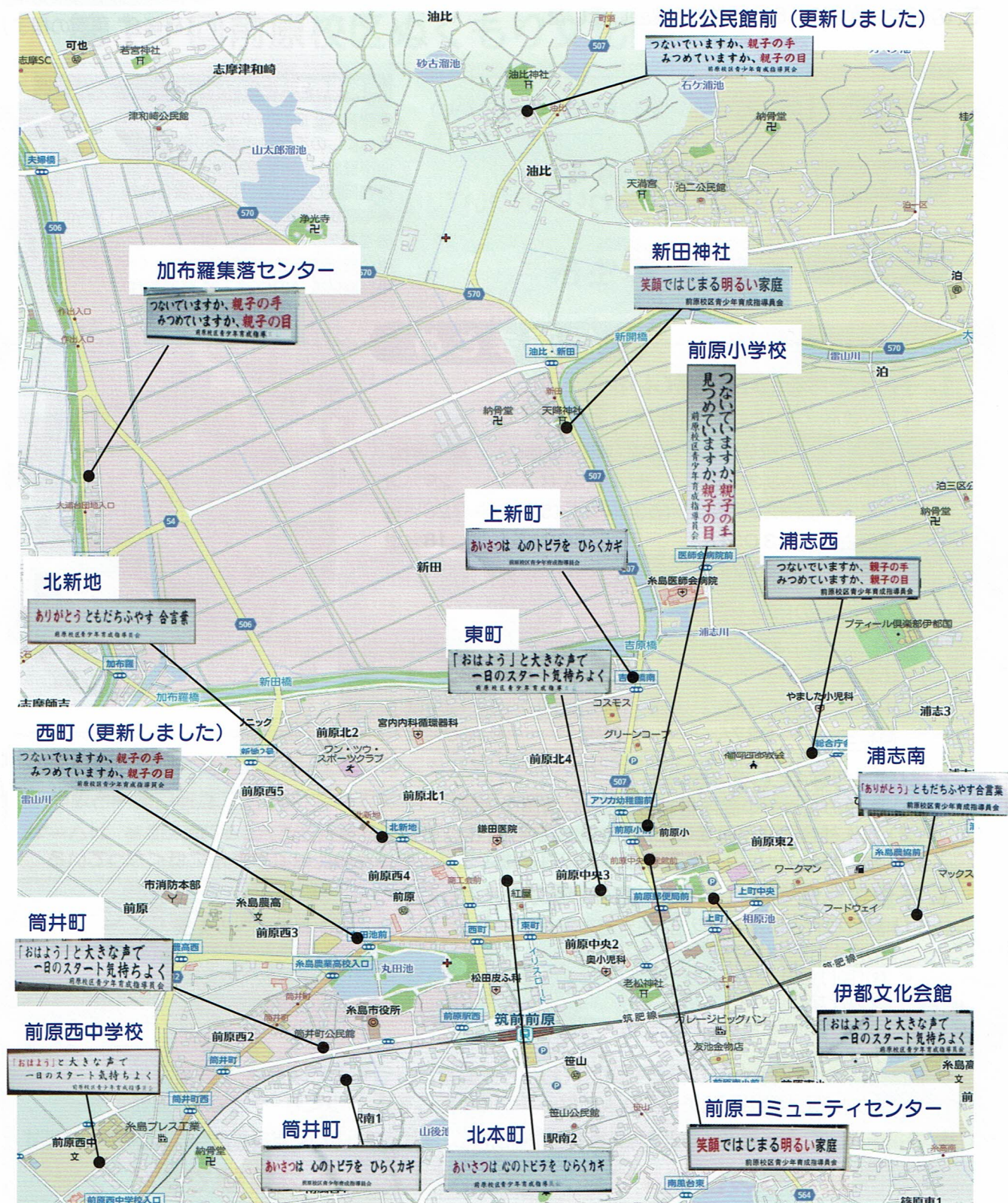
毎年恒例の三世代交流を目的とした『ぬくもり文化祭』が、10月28日と29日の2日間に渡り、前原小学校と前原コミュニティセンターで盛大に開催されました。青少年育成指導員会が担当したダーツゲームは、参加人数764人で過去最高でした。今年も、また、たくさんの参加をお願いします。

ステージ発表とアトラクション



育成標語看板について

各行政区などに「育成標語看板」を設置させていただいています。
看板が破損もしくは通行に危険な状態の時は、前原コミュニティセンター
(322-2481)へ連絡をお願いします。



前原校区青少年育成指導員とは？

前原校区のうち、6行政区(筒井町, 浦志西, 浦志南, 北新地, 北本町, 上新町)から 各2名、6行政区(油比, 新田, 上町中央, 南本町, 東町, 西町)から各1名の計18名が系島市から委嘱され、青少年の指導、育成、保護、地域防犯および各団体の運営補助等を行っています。

会長 益田(筒井町), 副会長 西村(上新町), 同 藤木(浦志西)
【環境指導部】9名, 【広報部】9名, 計18名

活動方針

“地域の子どもは地域で守り育てよう”

地域の一員として健全に育つための導き

- ・ 駅伝大会の支援
- ・ 地域の夏祭り、文化祭への参画

非行に走りにくく、犯罪・事故から守る環境づくり

- ・ (夜間) 青色パトロール、夏祭りパトロール
- ・ 標語看板設置、広報誌発行

主な年間活動

- ◇ 全体会 (年4回)
- ◇ 執行部会 (年11回)
- ◇ 校区内夜間巡回 (年6回)
- ◇ 青色パトロール講習会 (5月16日)
- ◇ 青少年育成指導員研修会 (5月20日)
- ◇ ぬくもりコンサート (6月24日) (運営補助) ●
“みんなで生きよう” 演奏: ホルン奏者 麦野達一氏
- ◇ 夏祭り夜間巡回 (他団体共同7月25日)
- ◇ 夏休み夜間巡回 (青少年育成指導員8月24日) ●
- ◇ 行政区夜間巡回 (各行政区夏休み期間中2回)
- ◇ ぬくもり学習会 (8月24日) (ぬくもりネットワーク協同開催)
「不登校児に対する地域社会の関わり方について」
講師: ちょうあみ みきお 長阿彌 幹生氏
- ◇ ぬくもり文化祭 (10月28, 29日) (ダーツゲーム)
- ◇ 前原・東風校区対抗駅伝大会 (12月10日) (運営補助) ●
- ◇ 広報誌「EYE NET」発行 (2月1日)
- ◇ もりもりひろがる森林づくり (2月17日予定) (協力参加)



青少年育成指導員研修会

令和5年5月20日(土)

毎年、年度初めに青少年育成指導員を対象とした研修会を実施しています。研修会では、育成指導員としての心構え、青少年との接し方、地域社会とのかかわり方などを学んでいます。

今年度の外部講師による講演は、ぬくもりネットワーク(校区民会議)と合同で、ぬくもり学習会(8月開催)で実施しました。



【研修会 講演の様子】

ぬくもり学習会 令和5年8月22日(火)

講演テーマ

「不登校児に対する
地域社会の関わり方について」

講 師

ちようあみ みきお
長 阿 彌 幹 生 氏

長阿彌幹生氏プロフィール

- 教育文化研究所 代表
- ちくしの不登校支援ネット 代表
- 不登校サポートネット 代表
- 福岡県ひきこもり対策協議会委員
- 福岡市共働事業「不登校よりそいネット」実行委員長
- 福岡デンマーク協会 理事長
- 北九州市不登校検討会議委員
- 医療法人・NPO 法人等 顧問歴任

講演まとめ

1. 子どもたちを取り巻く厳しい状況

(1) 不登校の現状(2021年度)

	2020年度	2021年度(全体比)	前年度比
小学生	63,350人	81,498人(1.3%)	29%増
中学生	132,773人	163,442人(5.0%)	23%増
高校生	43,051人	50,985人	18%増
合計	239,174人	295,925人	23.7%増

(2) 子どもの自殺【急増】

	2019年	2020年	前年度比
小学生	6人	14人	233%増
中学生	96人	136人	142%増
高校生	237人	379人	160%増



2. なぜこうなってしまったのか？

- (1) 格差の拡大＝中間所得層の衰弱化・貧困の連鎖
- (2) 大人社会に利己的な考え方(自分さえ良ければ)が蔓延
- (3) その結果：日本の子ども若者などの自己肯定感が主要国との比較でも非常に低くなっている

3. 不登校児童生徒への関わり方(地域の大人として)

(1) 私たち大人自身の考え方・生き方を変える

- ①大人自身の希望や夢を持つ
- ②「助け合い・支え合い・分かち合い」の生き方を実践する
- ③みんな違ってみんないい
(学歴・職業・肩書・年齢・性別等で人を判断しない)

(2) 当事者への支援

- ①本人への支援
- ②家族への支援
- ③その他、支援への留意点

◆ 問題解決は本人や家族が行うもので代わって支援者が行うものではない

⇒ そっと優しく当事者が一歩ふみだせるように後押しする ゆっくり・やさしく・何度でも

◆ 支援を通して、被支援者はもとより支援者自身も成長し、幸せになっていく支援が本当の支援の在り方です

私たちの目指すのは 当事者やその家族の笑顔です！